

ひびき

教育目標:「なかよく かしく たくましく」
－ 一人一人を大切にする「風通し」のよい学校－
多治見市立共栄小学校 R.5.5. 1

授業参観・学年懇談会ありがとうございました！

－ 保護者の皆様との「対話」を大切にした「風通し」のよい学校に－

校長 加藤 隆史

4月22日(土)、令和5年度の第1回目の授業参観と学年懇談会を行いました。コロナ禍が落ち着いていることもあり、分散型にせず、一斉の開催にしました。多くの保護者の方に来校していただき、子どもたちが学習に向かっている姿をみていただくことができました。また、学年懇談会でも、多くのご参加がありました。各学年の担任と保護者がひびきを交えて子どもの成長について考えを共有することは、たいへん有意義なことです。さらには、PTA会長の水田様と私とで、各学年の懇談会で挨拶の時間を設けていただきました。どの学年でも、温かく迎えていただけたことに感謝申し上げます。



さて、放送でもお伝えしましたが、今年度、私が学校を運営していく上で、最も大切にしたいことは以下の点です。

子どもたち一人一人を大切にする「風通し」のよい学校づくり

保護者の皆様とも「風通し」のよい関係づくりをしていくことが、子どもたちのよりよい成長につながっていくと考えます。そのためには「対話の文化」や「対話の仕組み」をつくっていくことが必要となります。「対話の文化」とは、「こんな力を子どもたちにつけさせたい」「こんなふうに子どもたちを育ていきたい」ということを、保護者と教師が同じ思いをもち、そこに向けてお互いに気兼ねなく話ができる雰囲気です。そして「対話の仕組み」が、今回のような学年や学級の懇談会や5月に予定している個別懇談がその一つです。そういう意味でも、何年かぶりに年度始めに、学年懇談会ができたこと



はうれしいことでした。また、こうした懇談会をきっかけにして、日常的にも子どもを成長させる上で心配なことを話をすることも大切な仕組みです。もちろん、嬉しかったことも…

働き方改革が課題となっている今日です。しかし、「対話をしている時間がない」という雰囲気の学校にはしたくありません。「子どもたちのよりよい成長」や「よりよい働き方改革」を生み出すのも一に對話、二に對話、三四がなくて五に對話だと私は考えます。